

# 牧野富太郎博士 岐阜薬大と縁

NHKで放送中の連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルとなっている植物学者の牧野富太郎博士（1862～1957年）。創立90年以上の歴史を持つ岐阜薬科大（岐阜市大学西）が1939年に牧野博士と関わりを持ち、旗と書を贈られていた。岐阜市は長年保管されたままだった寄贈品に着目し、優れた業績を残した牧野博士と市のつながりを知ってもらおうと、7月11日から9月24日まで、同大所蔵の関連資料と合わせて市歴史博物館（同市大宮町）エントランスで無料公開する。（山本真史）

市や原英彰学長による 研究室を調べて実物を確認と、同大前身の岐阜薬学専門学校の植物研究部が、飛騨地域で採集活動を行った際に牧野博士が指導に訪れ、旗と書を贈った記録が残っている。「らんまん」の放送を受け、同大薬草園

## 採集で飛騨へ 学校に旗と書贈る



牧野富太郎博士から贈られた旗と書を紹介する原英彰学長（左）ら＝岐阜市役所

られた書はほとんどが不明瞭な文字だが、高知県立牧野植物園の協力を得て「草を褥（むしろ）に、木の根を枕、花と恋して五十年、岐阜●薬学専門学校植物研究部 牧野結綱 我歳七十八」という言葉がしたためられていることが分かった（●は判

## 11日から岐阜市で公開

読みづらい）。他にも、飛騨での採集活動時に植物2種を発見したなどの記録もあるという。市歴史博物館では寄贈品の無料公開と同じ期間中に、牧野博士が尊敬した県ゆかりの本草学者飯沼慾斎の関連資料を2階総合展示室で有料展示する。柴橋正直市長は「2人の展示を見て植物談議に花が咲くことを期待している」と来館を呼びかけた。